

平成21年度第6回 下山地域会議 会議録

【日時】平成21年9月17日(木) 19:00～21:00

【場所】下山交流館第11会議室

【出席者】委員 13名出席 2名欠席

事務局 加藤支所長 原田 西山 鶴田 加藤

【次第】1 あいさつ

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

4 協議事項

(1)意見聴取について

- ・ 22年度の地域予算提案事業について
- ・ 定住に対する聞き取り調査について
(9/10 定住事例発表のふりかえり)

(2)分科会ごとに検討

5 今後の予定

第1回たべてみりん!「下山食彩賞」料理コンテスト二次審査 9/26

第7回地域会議 10/15

6 その他

地域会議正副会長会議の報告

【内容】

1 あいさつ

(会長)本年度の地域会議もまとめの時期になり、来年度3期のメンバーを選出する時期にもなった。事業については、分科会ごとに一生懸命にまとめていただき、次年度にバトンタッチできるような体制を作りたいと思う。

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

全委員承認

4 協議事項

(1)22年度地域予算提案事業について

(会長)22年度地域予算提案事業について、各自治区に順次行っていただいた結果報告を。

(委員)料理コンテスト、子育て支援、農産物直売所など地域の活性化になっていくから、いいじゃないかという意見でした。高齢化が進み、地元の草刈事業が沢山あり、新しい行事を組むと大変だと言われる方もあった。

(委員)旧豊田市に近い方と阿蔵地区の高齢化や人を増やそうという定住の話の意味合いが違う。奥の方は入ってもらう人のために空家を探すのではなく、今いる人を出て行かさないようにしてほしいという地元の意見があった。

(委員) 22年度地域予算提案事業については全部肯定的でした。定住については、そう簡単に対応できることではないが、真剣にやっていかなければいけない。住民と一緒にやっていくことも大事だが、支所の仕事としても今まで以上に真剣に捉えていただき、自分達で頑張る良い方法を手探りでやっていかなければいけない。年配の方ばかり入れても仕方ないため、入ってもらった方が我々の地域の核の一員となってやってもらえるような魅力ある地域にするために体制を作っていかなければいけないという意見があった。

(委員) 定住促進については、どこも将来は不安だが、気持ちはみんな前向きな意見が出ていたということで、何か1つ良いきっかけさえできたら、進んでいくのではないかという感触でした。

(会長) 定住に対する聞き取りと、定住の勉強会に参加された方は、その時にどう思われたかを伺いたい。

(委員) 後継者が帰ってくるようにするといい。定住してくれるなら若い家族がいいという意見があった。

(委員) 若い人は深刻な顔をして聞いていた。すごく危機感があるという感じはあまりせず、何年後には準限界集落になると話をしても、実感しているのは逆に若い人なのかと思った。

(委員) 情熱がある人が現れるかどうかで地域が変わっていくのだと衝撃的でした。都市部に近いし、若い人は定年になったら戻ってきてくれることで危機感がないと思う。

(委員) 梶さんの話で大変衝撃を受けました。自分はその人ほどパワーは出てこないと少し尻込みをした。ただ危機感を感じることはあるので、地元が元気になって若い人が出て行かなくてもすむような方策はないか考えていきたいと思う。

(委員) 子ども達のバス通学で、部活ができないなどあり、ここから高校に通うのは大変だと思っているので、そこのところを何とかしないと子どもにはここに住めとは言えない。

(会長) 本来ならば、あちらに出向いて聞いてくるのが本意ですが、来ていただいて話をさせていただいた。この後、分科会に移り、分科会ごとに検討を。

分科会ごとに検討

(会長) 平成22年度地域会議委員の選考について、過日会議がありました。豊田市内の地域会議のメンバーで一番若いのが下山でした。22年度については、10月上旬から委員の選考し、12月にかけて決めていこうというスケジュールです。市長決裁が2月下旬。新任委員研修が3月ということで、選考委員会で進めていく。この会議の運営上でできれば半数ぐらいは残っていただくようにしたいと思うので、お願いします。

(事務局) 支所長と地域会議正副会長、区長会の正副会長の5名で選考委員会を組織し、9日の区長会で地区の推薦依頼をしていく。

(会長) 地域会議を終わります。ありがとうございました。